

2010年10月、国際交流基金主催の日本文化紹介派遣事業「歌舞伎レクチャー&デモンストラーション」公演で、私はメキシコ合衆国（モンテレイ・メキシコシティ）→エルサルバドル共和国（サンサルバドル・サンタアナ）→ホンジュラス共和国（テグシガルパ）を訪問、巡回した。以下はその折の旅日記からの抜粋である。

10月14日

16:48 メキシコシティ発 TA231 便 メキシコ 2 都市の公演を無事に打ち上げ、今日は次の公演国エルサルバドルへ向かう。メキシコはサマータイムなので1時間の時差があり、2時間ほどのフライトののち、18:00 前に首都サンサルバドルに到着。火山国の当地は、休火山のサンサルバドル山が再噴火間近と側聞。高温多湿と聞いていたが、空港に降り立った感じでは標高が800メートル（軽井沢辺り）くらいあるせいか、また乾季に入ったせいか、そんなに暑くなくカラッとしていて過ごしやすそう。

しかし、銃器を用いた犯罪が多発。青少年凶悪犯罪集団マラス絡みの事件が顕著で、殺人発生率は日本の70倍だという！（怖）空港では大使館のご配慮で、パトカーや護衛車が待ち構え、ホテルへの移動も、まず荷物を積んだトラックが先頭に、つぎに護衛車、その次に我々一行15人ほどを乗せたマイクロバス（私服警官同乗）が連なり、最後尾にパトカーという物々しさ！これから6日間の滞在中、ホテル内以外での行動はすべて彼ら警官の監視下に置かれる。夜間の外出はもっての外の厳禁！昼間のひとり歩きも勿論禁止である。ホテルで休憩後、夕食は近所の中華飯店に行くことになったが、歩いて5分ほどのところなのに、全員またマイクロバスに乗り、パトカーが警備するという念の入れよう。帰りにみんなでスーパーマーケットに立ち寄り、飲料水を購入することになったが、レジで支払いをしていると、目の前で機関銃を構えた警官が見守っているので唖然呆然……。

メキシコ公演の疲れがどっと出たのと、当地の警備の厳重さに目を白黒させて、シャワーを浴びて、23:00前、早目に就寝。

10月15日 8:20 地元テレビに生出演の為、紋付羽織袴の正装で、大使館書記官の廣田さんに付き添われて（勿論、パトカーに守られて）、6チャンネルテレビ局に向かう。朝の情報番組「今日も元気で！」にて、廣田さんの通訳を交えてキャスターの方の質問に答え、公演の宣伝に務める。好意的なテレビ局の方々の対応に感謝。

10:00前にホテルに戻り、今回同行している後輩の中村又之助さん、市川喜之助さんと合流して新聞1紙の取材と撮影。11:00より別の新聞2紙の取材と撮影。各紙の記者さんは皆さん歌舞伎をよく調べられていて、興味本位でなく、誠実に歌舞伎を理解しようとする姿勢が伝わり嬉しい。正午取材終了。紋付を脱いで、今日はじめての食事にありつける(笑)



サンサルバドル公演の新聞記事

19:00 加来日本国大使主催夕食会



加来大使主催夕食会での記念撮影

実は、2004年に同じ歌舞伎レクデモ公演でニュージーランドのウエリントンを訪れた時、加来大使は公使として赴任されており、大変お世話になった経緯がある。加来大使は6年振りの再会をとっても喜ばれ、歌舞伎通の奥様共々大歓待でお迎えくださった！

各大使館は、国際交流基金に様々な日本文化の派遣要請を提出し、それを基金がコーディネートするのだが、歌舞伎のような大掛かりなものは遠隔の小国に廻って来る可能性が低い。

それが今回、日本メキシコ交流400周年記念事業として歌舞伎レクデモ公演が実施されることになり、隣国

のエルサルバドルとホンジュラスでも巡回が可能となった次第。加来大使はエルサルバドル初の歌舞伎レクデモ公演実現を心底喜ばれて「親日国のエルサルバドルで、歌舞伎のような日本の伝統文化を紹介することは大変意義のあることで、人々も心待ちにしていましたよ！」とおっしゃった上で、エルサルバドルの今の国情を述べられた。「だから、日本の技術協力は勿論、こういう文化交流が必要なんです！皆さんの明日の公演を期待しています！」と熱く激励してくださった！我々は身の引き締まる思い。ふと我に返ると、6年前のニュージーランドでも私は鷺娘を踊った。今回も加来大使ご夫妻の前で同じ鷺娘を踊る。私は自分の進歩のなさに暗然とした……。明日の舞台は1から出直せねばと自戒して、大使公邸を辞する。

10月16日 18:30 サンサルバドル公演開幕。

会場のサンサルバドル国立劇場大ホールは、旧市街の中心に立地し築100年ほどの建物。長らく閉鎖されていたらしいが、7年前に改装し再開場した由。劇場のとなりは協会で、正面向かいは広場。多くの店が立ち並び、人々が集い、喧噪を極めるが活気に溢れている。



サンサルバドル国立劇場大ホールの客席と天井



劇場前で寛ぐ又之助さん喜之助さんと演奏の皆さん



サンサルバドルの劇場楽屋の窓から見下ろすと向かいは床屋さんでした

当公演は大使館の主催だから無料。そのせいもあってか、開演2時間前から400人もの長蛇の列！それどころか人々は劇場の周りを十重二十重に取り囲んで、結局、招待客が230人ほどいるから、入場出来た一

一般客は 400 人で、入場出来なかった人々はなんと 4~500 人にも及んだそうだ！人々は明日も公演してほしい！終演後 11:00 から追加公演してほしい！

と詰め寄ったそうだが、大使館の皆さんが、公演全演目を収録して、次週の日曜日にテレビ放送すること、明後日にサンタアナでも公演することを告知し説得して、ようやく引き取ってもらったそうである。嬉しい悲鳴だが、まことに申し訳ない限り・・・。

大使のご挨拶のあと、定刻に開幕。鷺娘もレクチャーも石橋（しゃっきょう・獅子）も、熱狂的な反応を頂いて 21:05 に終演。開演中グッドタイミングで掛け声が掛かる。どなただろう？ 楽屋に大使ご夫妻がわざわざお見えになり労いのお言葉を頂く。「サンタアナへも参りますよ！」と伺い恐縮の限り。

ふと楽屋の窓から外を見下ろすと、昼間の喧噪とは打って変わって人通りが途絶え、街灯も乏しく暗い。楽屋口を出ようとする小さな子供たちがたむろして、私たちが手にしている夜食のサンドイッチの包みやコーラの缶を物欲しげに見詰めている。よっぽど与えようかと思ったが、大使館の方から「癖になるからやめてください」と止められた。貧富の差が激しい中米諸国のこれが現実だ。この子供たちはこの公演を観ることが出来たのだろうか？

10月18日 18:30 サンタアナ公演開幕



サンタアナ国立劇場大ホール舞台



同じく劇場ロビーにて

ここはサンサルバドルから車で 1 時間ほどの地方都市。マイクロバスで向かう途中、長閑な田園風景が続くが、放牧されている牛や馬はどれもやせ細っている。街の中心の広場前に建つサンタアナ国立劇場は築 100 年ほどで、普段は劇場見学のために開放している。

サンタアナの街はのんびりした田舎街で、治安が悪いなんてとても思えぬが、劇場前に銃禁止の標識があり、びっくり仰天！ 護衛の警官皆さんとすっかり顔見知りになったので、打ち解けて広場で記念撮影。



仲良くなった護衛の皆さんと記念撮影



銃禁止の標識にビックリ！

2階楽屋の窓から見下ろすと、向かいが雑貨屋らしき店で、その左角が小さな交差点。そのコーナーを後ろ手に手錠を掛けられた少年が警官ふたりに連行されて行き過ぎ、行商のおばちゃんふたりが、果物が山盛りになった大きな籠をあたまに乗せて談笑しながら通り過ぎる。人生こもごも……。



サンタアナ国立劇場正面



サンタアナの劇場楽屋の窓から見下ろす

ところで、保存博物館みたいな劇場だから設備は不十分で、エアコンが無いから蒸し暑くて堪らない！案の定、開演後まもなく激しいスコール！

こちらも長蛇の列で、入り切れない観客が400人ほどいたという。ごめんなさい。

鷺娘の幕が開く。舞台は多少傾斜があるが私は大丈夫。だが、演奏の皆さんは苦勞されていて申し訳ない。大変な湿気で息苦しい！体力がどんどん消耗する……。早替え（着替え）の為に舞台袖に引っ込むと、大使館の辻本さんはじめ運転手さんまで総動員で扇いで風を送ってください！皆さんの献身的なサポートに支えられ、気を取り直して必死に踊って無事に幕。だが、レクチャーでもあたまがボーっとして呂律が回らない。そこをどうにか切り抜けて、ラストの石橋（獅子）は限界ギリギリまで毛を振って、私（雌獅子）も又之助（雄獅子）さんもぐったり。この劇場でもいい間で掛け声が掛かる。因みに、私は「京屋」、又之助さんは「播磨屋」、喜之助（名前替えされて、現在は市川右左次うさじ、屋号は高嶋屋）さんは「おもだか屋」



鷺娘開演前の楽屋風景 左はサンサルバドル、中と右はサンタアナの楽屋で、壁は素敵なグリーンでした！私の好きな色です(笑)

ともかくにも、はじめて観る異国の歌舞伎という芸能に、サンサルバドルでもサンタアナでも観客の皆さんがストレートにいい反応を示してくださるので、大変やり甲斐があり、手応え十分だった！

終演後、雨も上がった。荷物を纏めて片道1時間の距離をサンサルバドルのホテルまで戻ると、はたして、

加來大使ご夫妻がご持参の日本酒を携えて我々を待ち受けてくださっているではないか！早速、ホテルの日本食レストランで打ち上げパーティー！

加來大使の喜びようは一入で、「皆さんは歌舞伎の伝道師です！」と過分なお言葉を頂き感無量。我々の苦勞が報われた思いである。それもこれも大使館の廣田、辻本（舞台監督の井口さんの助手として完璧の働きぶり！）、曾田さんはじめ、職員の方々の獅子奮迅の働きと協力があつたればこそで、親身なる対応に心より感謝申し上げます！

ところで、掛け声の正体はやはり大使ご自身だった！歌舞伎通の奥様のご指導よろしき故と納得。

すでに午前零時近く。大使ご夫妻も我々も名残りは尽きないが、またいつか何処かの国での再会を固く約してお別れした。

あれから 11 年経った。

私は歌舞伎のご紹介の仕事で、この 20 年間に通算 34 か国 60 都市以上を歴訪しているが、2010 年のメキシコ・エルサルバドル・ホンジュラス公演は特に印象深い。それまで内容的に失敗した公演もあったが、このメキシコ・中米ツアーは大掛かりで、内容も吟味し、動員的にも成功した公演だった。

一昨年 2019 年の 11 月、文化庁の文化交流使の派遣で、私はアメリカ→メキシコ→キューバを巡回した。メキシコは 9 年振りの再訪だった。それから数か月後に世界が一変するとはこの時誰が予想したのだろうか・・・。

私は辻本さんのエルサルバドル体験記の熱心な読者ではないのでまことに申し訳ないが、ネット情報に頼ると貧困と治安の悪さは 11 年前と少しも変わらないらしい。コロナ禍対策は積極的に取られているらしいが、日本と同じく一進一退だという。楽屋入口にたむろしていた子供たちは成長して元気に過ごしているだろうか？ 私たちを誠心誠意護衛して下さった警官の皆さんもお元気だろうか？加來大使や大使館の皆さんは現在は何処の国に赴任されているのだろうか？ 一期一会とは言い条、2 度と巡り合えない人々が居る・・・。

目先のことに追われて再会が果たせない自分がもどかしく情けない・・・。

〈追記〉その後の情報によると、ブケレ政権発足後、殺人事件は減少に転じており、就任時 2019 年 6 月の 1 ヶ月の殺人件数が 231 人であったものが、2020 年の 1 ヶ月平均は 110.16 件まで減少しているとのこと。

中村京蔵（なかむら きょうぞう）氏

歌舞伎俳優。東京都出身。1982 年国立劇場歌舞伎俳優養成所研修修了後、四代目中村雀右衛門に入門、中村京蔵を名乗り現在に至る。月々の歌舞伎公演のほか、海外歌舞伎レクチャー&デモンストラーション公演に参加、訪問先は 2020 年現在、通算 34 か国 60 都市に及ぶ。2007 年第 62 回文化庁芸術祭舞踊部門新人賞受賞。2019 年令和元年度文化庁文化交流使を務める。国立劇場歌舞伎俳優養成所講師。